

被爆二世の健康に関する考えの実態

大石 紘大¹, 浦田秀子², 新川哲子², 永田明³, 近藤久義⁴
佐藤奈菜⁵, 柴田久美¹, 松尾帆浪¹, 吉松直樹¹,
高比来ひとみ¹, 河野友子⁶, 三根真理子⁶, 高村昇⁴

- 1 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 修士課程 災害・被ばく医療科学共同専攻
- 2 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 災害・被ばく医療科学共同専攻
- 3 長崎大学 生命医科学域 保健学系
- 4 長崎大学原爆後障害医療研究所
- 5 長崎大学病院 看護部
- 6 公益財団法人 長崎原子爆弾被爆者対策協議会

背景

○1945年（昭和20年）8月9日 11時02分 原子爆弾投下
死者：73,884人 重軽傷者：74,909人



長崎原爆資料館 原爆の記録

<https://nagasakipeace.jp/japanese/atomic/record.html>（閲覧日：2019.9.14.）

○原爆被爆者とは（厚生労働省）

1. 直接被爆者

原子爆弾が投下された際、定められた区域において、直接被爆した者。

2. 入市者

原子爆弾が投下されて2週間以内に救護活動
医療活動・親族探し等のために爆心地から約2kmの
区域内に立ち入った者。

3. 救護、死体処理にあたった者

4. 胎児

上記の1から3に該当した者の胎児であった者。

○被爆二世とは（長崎市）

1. 両親のどちらかが原爆被爆者である者
2. 昭和21年6月4日以降に生まれた者

* 広島で被爆した場合は同年6月1日以降に生まれた者

長崎市 被爆二世健康診断

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/heiwa/3010000/3010300/p002222.html>（閲覧日：2019.9.14.）

- ・ 公的な援護施策は「被爆二世健康診断」（被爆二世健診）のみである。

○被爆二世健診（厚生労働省）

被爆二世の中には健康面での不安を訴え、健康診断を希望する声が多い現状を鑑み、健康診断を実施する。

厚生労働省 被爆二世健康診断調査事業の実施について

https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb3852&dataType=1&pageNo=1

（閲覧日：2019.9.14）

通常、被爆二世であるという自覚が低い



疾患・体調不良
第一子の妊娠

放射線被ばくの遺伝的影響による不安が出現

(Kamite : 2017)

被爆二世であることが、何かしらの時に
自分は逃げられない立場であることを意識させる

(友池 : 2007)

一方で、

疾患に罹患していても、

遺伝的影響の不安を抱えない者 (友池 : 2007)

疾患に罹患していなくても、

遺伝的影響を確信している者 (Kamite : 2017)

もいる。

○**仮説：**

被爆二世であるということが自身の健康に関する考えに影響を与えている

○**目的：**

被爆二世の“健康に対する考え”を明らかにすること。

研究方法

○調査対象

公益財団法人 長崎原子爆弾被爆者対策協議会（原対協）
被爆二世健康診断 受診者 161名（回収率：94.2%）
有効回答者 138名

○無記名自記式質問紙調査

「性別・年齢」，「被爆二世という自覚」，
「親の被爆体験の聴取経験」，
「被爆二世であることでの健康不安」，
「主観的健康感」，
「健康を脅かすと思われる原因（複数回答可）」

分析方法

○統計分析

被爆二世であることの

「健康不安あり群」と「健康不安なし群」を比較した。

- ・ IBM SPSS Statistics ver. 24.0を使用。
- ・ 名義尺度の比較：カイ二乗検定
- ・ 「健康不安」と「年齢」の関連：Cochran – Armitage検定
- ・ 有意水準は5%に設定した。

分析方法

○健康不安についての記述分析

- Khcoder ver.3.Alpha.16を使用。
- 抽出語について共起ネットワークを作成。
 - 出現回数が上位5語のうち、Jaccard係数 0.3以上を有意であると判断した。

【Jaccard係数】

$$= \frac{\text{単語Aと単語Bの両方が同時に出現した数}}{\text{「単語A」と「単語B」のどちらか片方だけでも出現した数}}$$

* 「ある語」と「ある語」の関連性を示す。

結果

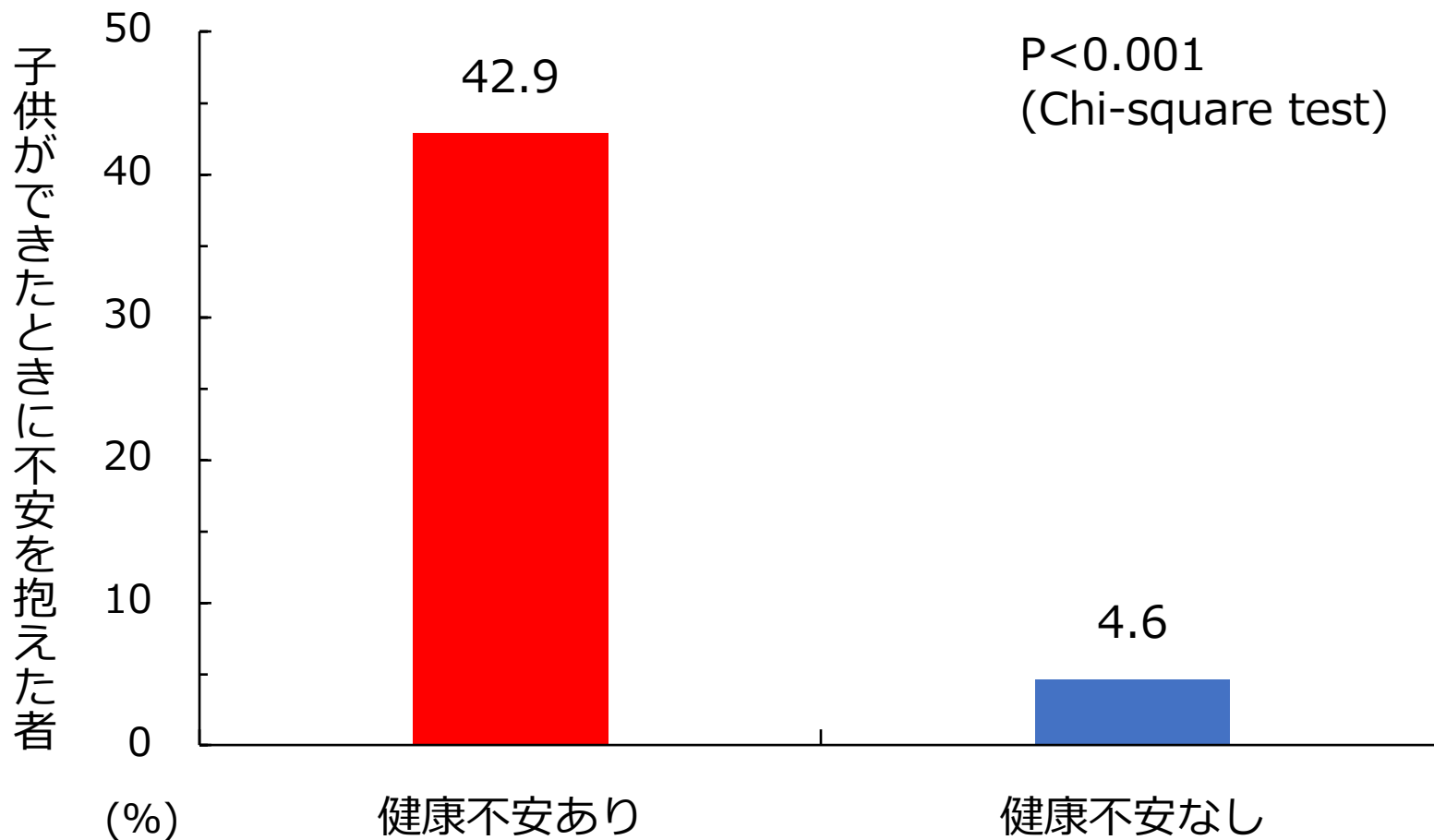
○対象者の属性

n=138

変数		人	%
性別	男性	45	32.6
	女性	93	67.4
年齢	30歳代	1	0.7
	40歳代	36	26.1
	50歳代	53	38.4
	60歳代	42	30.4
	70歳代	6	4.3
被爆二世であることの 健康不安	あり	53	38.4
	なし	85	61.6

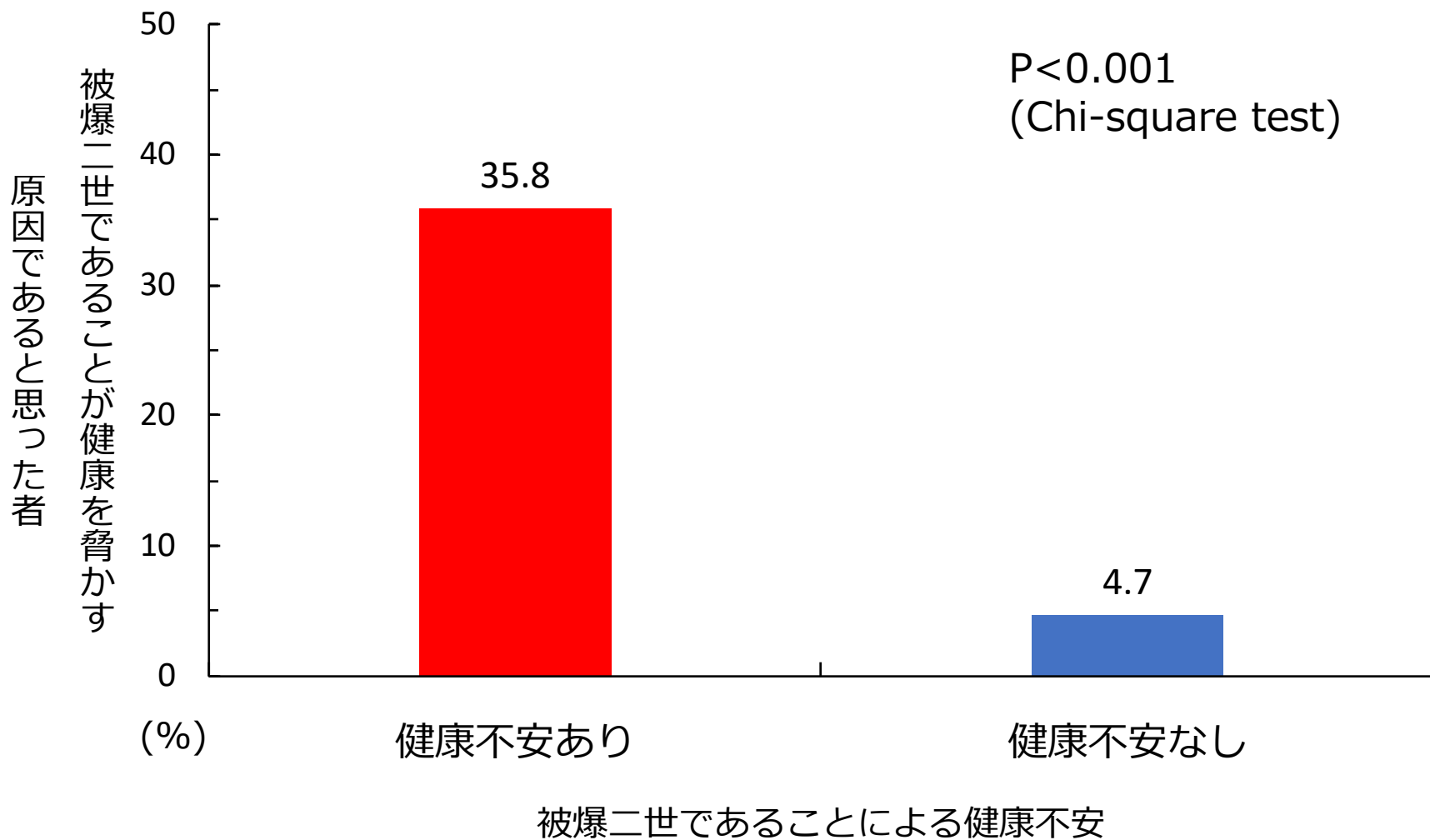
結果

○子供ができたときに被爆二世であることによる不安を抱えた者の割合



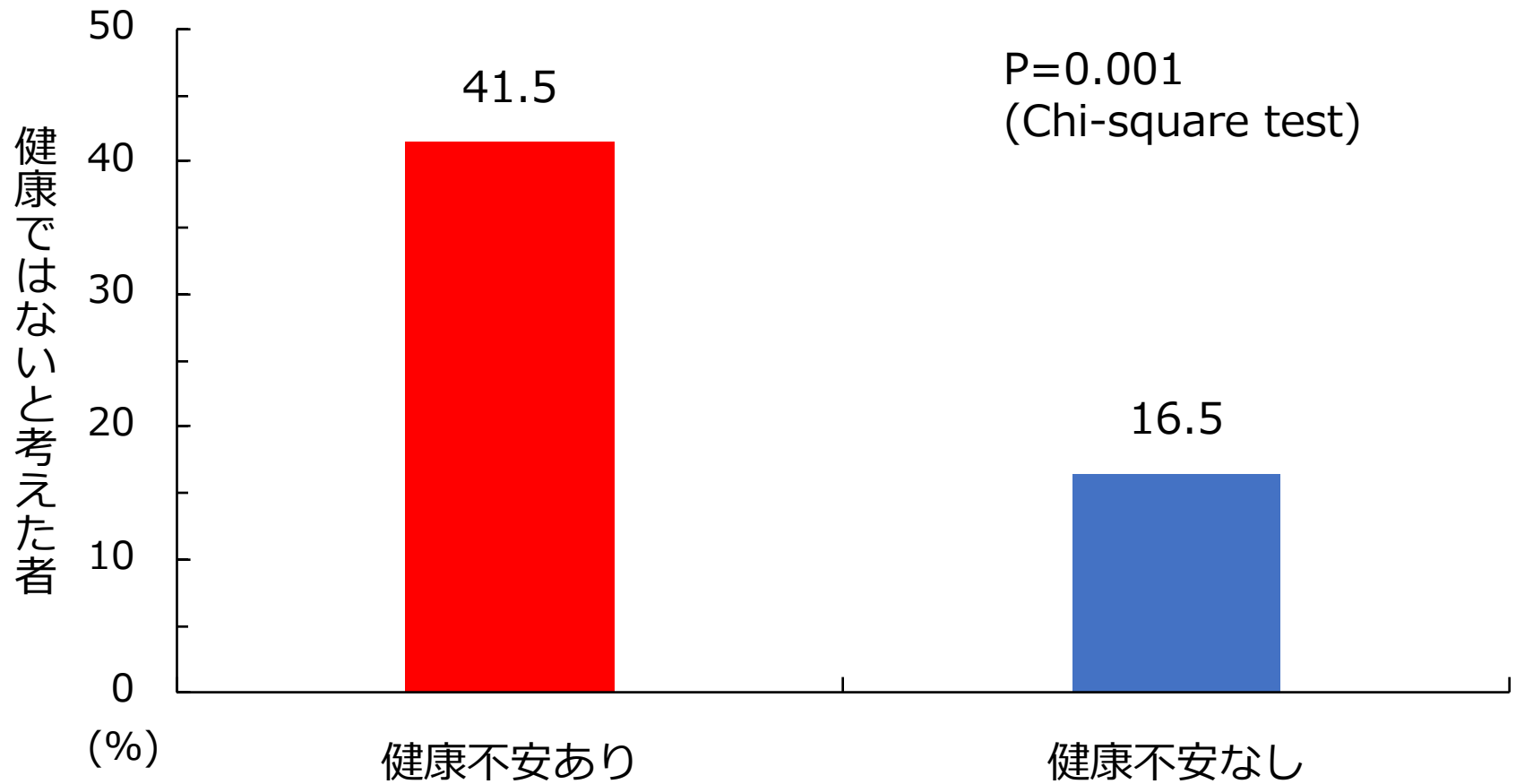
結果

○被爆二世であることが健康を脅かす原因であると思った者の割合



結果

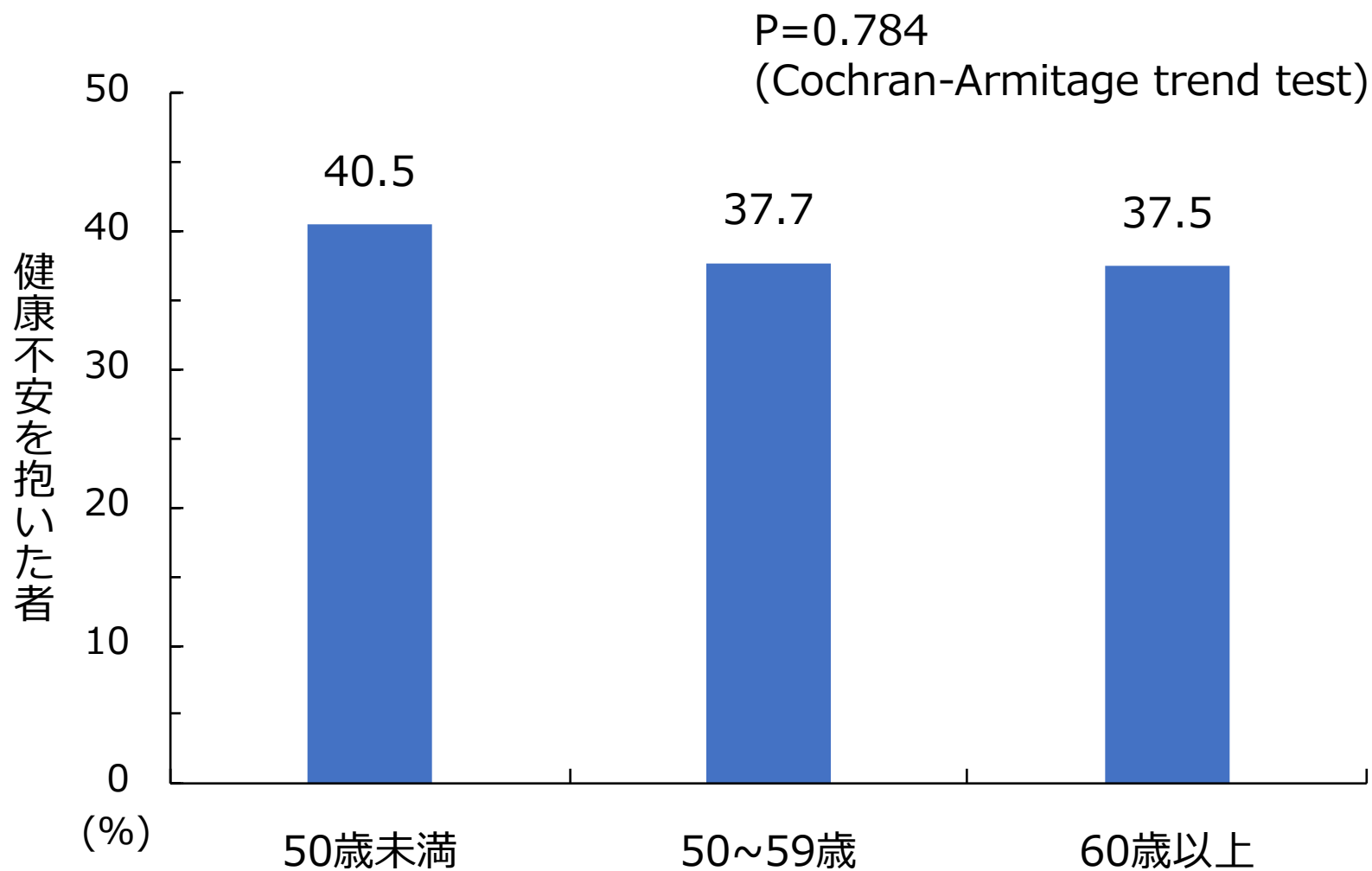
○主観的健康感が低い（健康ではない）と考えた者の割合



被爆二世であることによる健康不安

結果

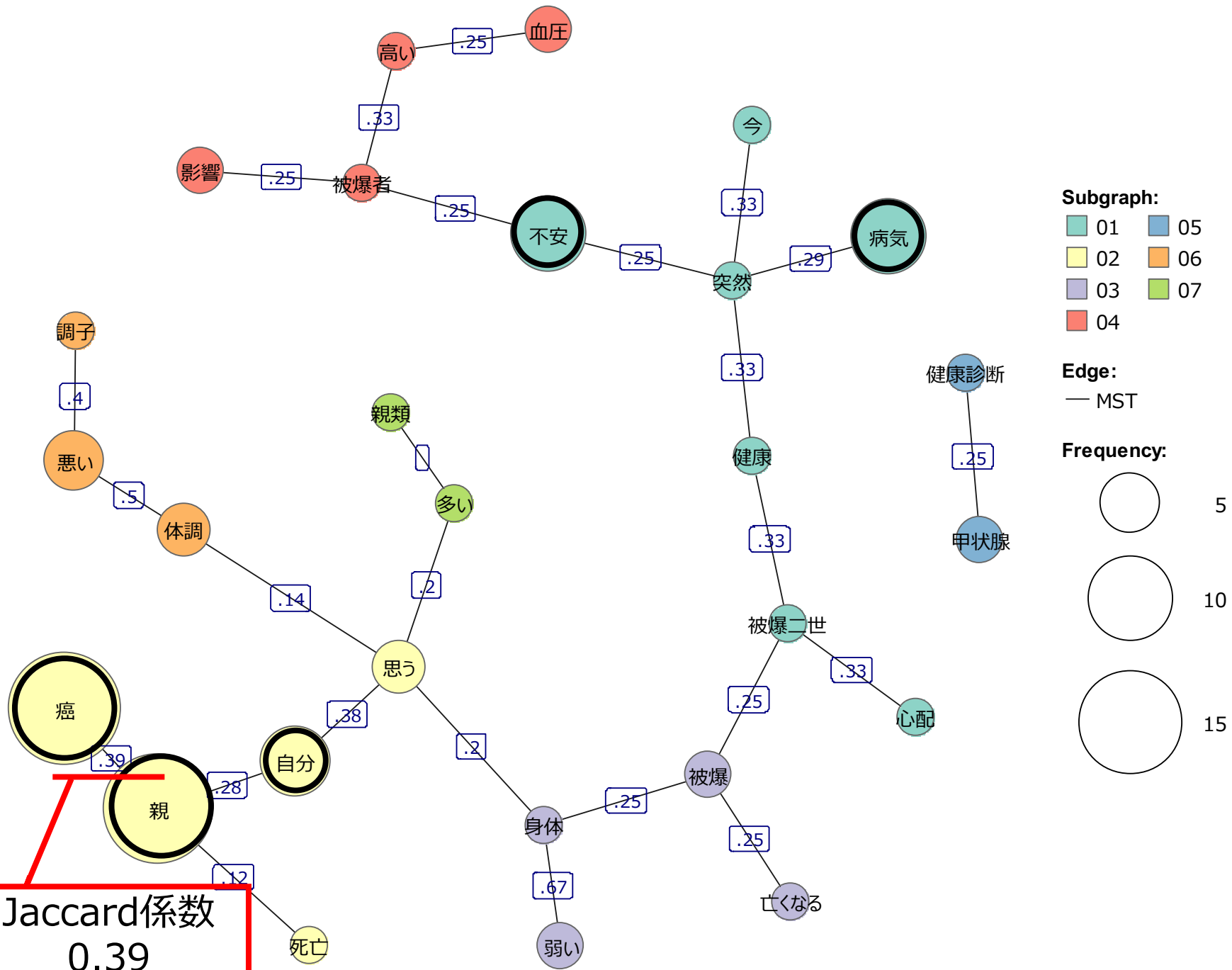
○年齢と被爆二世であることとの健康不安との関連



結果

被爆二世であることでの健康不安 自由記述 46/53名

抽出語	出現回数
癌：癌, がん, ガン	18
親：親, 父（親）, 母（親）, 両親	16
病気	8
不安	8
自分	7



Jaccard係数
0.39

結果

○被爆二世であることでの健康不安 自由記述 例

- ・ 親が何回か癌で手術をしているので自分もなりやすいのかという不安。
 - ・ 親がいくつかの癌になり、又、私が癌になるのか心配している。
 - ・ 親が癌で亡くなったことと、自分の病気は親の被爆が関わっているのではないかということ。
 - ・ 親、親類に癌にかかった人が多いので気になる。
 - ・ 親が癌で死亡のため。
-

考察

- 被爆二世であることの健康不安を抱える者は
 - －「被爆二世であることは健康を脅かす原因である」
 - －「健康ではない（主観的健康感が低い）」と考えている者が多い。



仮説：

被爆二世であるということが自身の健康に関する考えに影響を与えている

が成り立つことが明らかになった。

考察

- 被爆二世であることでの健康不安は、
 - －「年代」との関連はみられなかった。
 - －「親」と「癌」がキーワードであった。



- ・「親の発癌」・「親の癌による死亡」が健康不安の出現に関係していると考えられる。
- ・親の癌の闘病生活の状況や被爆二世者自身の看護・介護の経験が要因として考えられる。

- 被爆二世であることでの健康不安を抱えている者は、将来の世代に対しても健康影響や不安を抱えやすいと考えられる。

結語

- 被爆二世であるということが自身の健康に関する考えに影響を与えることが明らかになった。
- 健診受診者という背景から何らかの疾患を抱えている可能性は低いにも関わらず、健康不安を抱えている者がいることが明らかになった。
- その健康不安は「癌」・「親の癌」がキーワードである。